

氏名	多田将士
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	甲第1126号
学位授与の日付	平成29年3月12日
学位論文題名	Kidney Transplantation, Cardiovascular Risk, and Long-Term Dialysis in Japan 「日本における長期透析患者の腎移植と心血管リスクの関連性」 Transplantation Proceedings 48:26-30,2016
指導教授	湯澤由紀夫
論文審査委員	主査教授 尾崎行男 副査教授 白木良一 教授 剣持敬

論文内容の要旨

【目的】

日本における献腎移植の待機期間は長期化しており、2010年に献腎移植を受けた16歳以上の平均待機日数は平均15.6年であった。本研究では、移植前透析歴が移植後の経過に及ぼす影響を検討することを目的とする。

【対象】

1990年10月～2014年3月にかけて藤田保健衛生大学病院で腎移植を受けた全患者を対象とした。

【方法】

診療録から後ろ向きに調査した。腎移植患者を15年未満の透析期間(A群)と15年以上の透析期間(B群)の2群にわけ、患者背景と移植後の経過を比較した。調査項目は、年齢、性別、腎不全の原疾患、喫煙歴、左室肥大の有無、血圧、心血管疾患の既往、HCV感染、移植腎の種別(献腎[心臓死、脳死]、生体腎)、ABO不適合、HLAミスマッチ数、免疫抑制薬の種類、移植後の死亡と死因、移植腎機能の廃絶の有無、心血管疾患の新規発症である。心血管疾患は、心血管死、急性冠症候群、心不全での入院、脳出血、脳梗塞と定義した。

【結果】

腎移植を受けた263人中診療録からの情報が得られなかった18人を除外し、245人を対象とした。平均観察期間は全体で10.3±7.3年、患者数はA群210人、B群35人であった。移植腎の種別は、A群で献腎87人(心臓死86人、脳死1人)、生体腎123人、B群で献腎31人(心臓死29人、脳死1人)、生体腎4人であった。死亡は12人(A群10人、B群2人)、移植腎機能の廃絶は34人(A群29人、B群5人)、移植後の心血管疾患の新規発症は22人(A群17人、B群5人)であった。心血管疾患の内訳は急性心筋梗塞(A群6人、B群2人)、狭心症(A群4人、B

群0人)、心不全(A群4人、B群3人)、脳出血(A群1人、B群0人)、脳梗塞(A群1人、B群0人)、くも膜下出血(A群1人、B群0人)であった。B群はA群と比較し、献腎移植が多く(p<0.0005)、年齢(p=0.017)が高く、C型肝炎罹患(p=0.018)、高血圧の既往(p=0.011)、糖尿病の既往(p=0.041)、血液型不適合(p=0.015)が多い結果であった。生存率はA群において5年97.0%、10年95.7%に対し、B群は5年97.1%、10年97.1%であった(p=0.74)。腎生着率はA群において5年95.4%、10年84.8%に対し、B群は5年97.1%、10年73.1%であった。心血管疾患発症率はA群において5年4.1%、10年7.6%に対し、B群は5年11.4%、10年23.2%であり(p=0.038)、B群において有意に心血管疾患発症が高い結果であった。Coxステップワイズ多重回帰分析では、心血管疾患の既往(ハザード比,10.83;範囲, 3.25-36.08;P<0.0001)、移植前の透析期間(ハザード比,1.007;範囲, 1.001-1.012;P=0.012)は心血管疾患の予測因子であった。

【考察】

今回の検討では、移植前の透析期間は心血管疾患発症のリスク因子の一つであった。透析歴が長い症例については、心血管疾患発症のリスクを念頭においた移植後の管理が求められる。生体腎移植が長期透析患者で施行される症例があり、末期腎不全に対する腎代替療法の選択肢の1つとして、腎移植についても適切な情報提供を与えることが腎臓内科医の役割であると考えられる。

【結語】

長期透析後の腎移植の生命予後、腎予後は透析期間の短い患者と比較し不良ではないものの、心血管疾患の発症が多く、長期透析患者においては心血管疾患のリスク評価が重要である。

論文審査結果の要旨

我が国では、透析患者が年々増える一方で、腎移植を受けられる患者は増加せず、社会問題となっている。この状況を打開するため、国は臓器移植法を改正したが、移植件数は増加せず現在のところ解決策とはなっていない。本研究は、長期透析と腎移植後の心血管疾患の関連を明確化し、長期透析を行った移植患者の患者背景や特徴を明らかにすることで、移植患者の予後改善に対して問題提起を行い、改善策を提案した。すなわち、腎移植前透析歴が長くなることにより、心血管疾患のリスクが高くなる。そこで、リスクを軽減するためには、内科医が移植前に十分な心血管疾患のリスク評価を行うことと、腎代替療法の一つとして腎移植の説明を早期より行うことで移植待機期間の短縮を図ることである。このことにより、移植患者の心血管疾患発症の軽減が期待できる。以上の研究成果により、本研究は学位論文に値するものと評価された。